

わかりやすく、楽しく伝える県広報誌

# 美ら島沖縄

ちゅらしまおきなわ



久米島

おきなわの彩

【久米島 豊石】

特集

「沖縄県」この一年

企画

〈進め！うちなー調査隊〉  
地域や社会全体での取組が  
子どもたちの未来を守る  
鍵になる

読者  
プレゼント

抽選で10名様に！

詳細はP15をCHECK





# 年頭のご挨拶

ハイサイイグスーヨー イーソーグワチデービル

(新年、明けましておめでとございます。)

県民の皆さまには、気持ちも新たに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、「FIBAバスケットボールワールドカップ2023」や第7回「山の日」全国大会など国際・国内イベントを通して、沖縄の自然、歴史、文化などを国内外に発信することができました。一方で、台風6号により大きな被害が発生した年でもありました。災害に際しまして、国内外の皆さまから多くの温かいご支援をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

令和6年度は、「新・沖縄21世紀ビジョン実施計画(前期)」の最終年度となり、施策などの成果の発現が求められる重要な年です。

このため、変化する社会情勢や県民ニーズを的確にとらえながら、自立的発展と住民が豊かさを実感できる社会の実現を目標とする「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」の取組を加速させ、誇りある豊かな沖縄の未来につなげてまいります。

また、長期に及んだ新型コロナウイルス感染症の影響から持ち直しの動きが見られるものの、物価高騰による影響が懸念されている県民生活や経済活動、少子化・子どもの貧困問題など昨今の社会課題を踏まえ、「自立型経済の構築」、「子ども・若者・女性支援施策の更なる充実」、「辺野古新基地建設反対・米軍基地問題」の3つを県政の重要課題と位置付け、重点的に取り組んでまいります。

子ども・若者・女性及び高齢者支援施策について、その充実に向けて組織・体制強化を図ってまいります。

まず、子どもの貧困対策を「県政の最重要課題」に位置付け、「子どもの権利尊重条例」が目指す子どもの権利ファーストの理念の下、次代を担う全ての子どもが健やかに成長することができるとともに、子ども施策の実現を目指し、支援を必要とする子どもにも必要な支援が行き届くよう、子ども施策の充実に努めてまいります。あわせて、困難を抱える子ども・若者についても、さまざまな相談に応じ、関係機関と連携の上、必要な情報の提供や助言を行うなど、育成支援を継続的に実施してまいります。

また、女性があらゆる分野で持てる力を十分に発揮できるような環境づくりに

取り組むとともに、本年4月に施行される「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に基づき、女性の福祉の増進などの充実に取り組んでまいります。

そして、高齢者が生き生きと暮らせる地域づくりに向けて、保健医療と介護の連携を強化し、地域包括ケアシステムの構築などに取り組めます。

以上のとおり、県民のライフステージに即した切れ目のない、個々の状況に対応した総合的な施策を実施してまいります。

米軍基地問題については、県内外の皆さまに正確な情報に接し、理解していただけるよう、情報発信の取組を強化してきました。また、この問題解決の議論を醸成させ、国民の皆さまに自分ごととして考えていただけるよう、県内外各地でシンポジウムやトークキャラバンを実施してまいります。

本年も、過重な基地負担の軽減が図られるよう各種の施策を実施してまいります。

そして、我が国とアジア諸国・地域を結ぶ拠点として発展し得る沖縄独自の優位性を効果的に活用し、潜在力を顕在化させるとともに、アジア・太平洋地域の平和構築と相互発展に向けて沖縄県が積極的な役割を果たすため、さまざまな分野における地域外交の取組を戦略的に展開してまいります。

平和で誇りある豊かさ「新時代沖縄」を更にその先へ進め、誰もが輝き、誰もが尊重され、そして誰もが希望のうちに喜びを見つめることが当たり前の実現する島、幸福が真に実感できる沖縄を目指し、全身全霊で取り組んでまいります。県民の皆さまには、引き続き県政へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、新しい年が皆さまにとりまして明るく良い年となりますよう祈念いたします。まして新年のご挨拶といたします。

クトウシン ユタサルグトウ ウニゲーサビラ

(今年もよろしくお願ひいたします。)

令和六年 一月 一日

沖縄県知事 玉城 デニー

## 11/1 「琉球歴史文化の日」 記念イベントの開催

11月1日は「琉球歴史文化の日」です。先人たちが創り上げてきた沖縄の歴史と文化への理解を深め、故郷への誇りや愛着を感じられる地域社会の形成に取り組むとともに、新たな歴史と文化を自らの手で創造することを目的としています。県では、11月1日に「琉球歴史文化の日」を記念したイベントを開催しました。

記念イベントでは、琉歌および図画コンテストの表彰や、プロの演者と県内の児童生徒が共演し、琉球王国時代にフォーカスした音楽・踊り・映像などで織りなす舞台公演を披露しました。



琉歌および図画コンテスト表彰式の様子

## 11/17 「沖縄で働く、をもっと豊かに。」 第3回所得向上応援企業認証式を開催

沖縄県所得向上応援企業認証制度の認証式が開催され、照屋副知事が出席しました。

本制度は、従業員の所得向上に積極的に取り組む企業を認証するもので、2022年4月に創設され、今回新たに34社を認証し、認証企業は55社となりました。

照屋副知事は「人材に投資し成長する社会を共に創りましょう」と述べ、認証企業からは、所得向上に向けた決意や働きやすい環境の整備などの取組が表明されました。



## 11/23 玉城知事が4年半ぶりに台湾を訪問 経済・観光・文化の交流促進をアピール

玉城知事は経済界の代表とともに台湾を訪問しました。日本と台湾の経済・観光・文化交流に携わる関係者との面談を通して、今後の交流に向けた意欲を伝えるとともに、

### 沖縄県交流会議



観光・IT・半導体・スタートアップなどの分野で連携を進めることを確認しました。また、台湾で活躍する県出身者・県出身留学生とも交流を深めたほか、現地で開催された沖縄イベントに出演した学生を激励し、来場者に沖縄文化の魅力をPRしました。

## 11/29 「うちな〜いい肉の日キャンペーン」 セレモニー

11月29日に「うちな〜いい肉の日キャンペーン」セレモニーが開催され、照屋副知事が出席しました。

セレモニーを主催する沖縄県産食肉等消費拡大推進協議会は、11月29日を「いい肉の日」と定め、県産食肉などの地産地消・消費拡大に取り組んでいます。

照屋副知事は、「生産基盤整備支援に加え、県独自の飼料高騰対策や子牛価格安定対策を実施し、畜産農家の経営安定と畜産振興に取り組めます」とあいさつしました。



## 1 2024 January 美ら島沖縄

[ちゅらしま おきなわ]  
vol.580

- 02 年頭のご挨拶
- 03 県政フラッシュ
- 04 特集：「沖縄県」この一年
- 06 進め！うちなー調査隊  
地域や社会全体での取組が子どもたちの未来を守る鍵になる
- 08 連載シリーズとともに考える、沖縄の米軍基地の話①
- 09 県の動き1 「まちの保健室」のご案内  
県の動き2 「はたちの献血」キャンペーン
- 10 市町村ワードパズル [渡嘉敷村]
- 11 県の動き3 沖縄サッカーキャンプ&プロ野球キャンプ2024
- 12 情報ひろば
- 14 県の動き4 おきなわ花と食のフェスティバル2024開催！
- 15 読者プレゼント・広報課から1月のお知らせ・読者の声

### 沖縄の人口・世帯の動き 2023年11月1日現在

**146万9,036人**  
総人口 ※前月比661人増加

**64万2,397世帯**  
世帯数 ※前月比1,049世帯増加

沖縄県庁広報課  
公式LINE  
@okinawa-government



沖縄県庁広報課  
公式X (旧Twitter)  
@okinawa\_pref



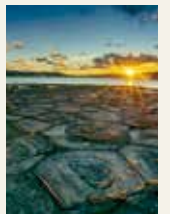
### 今月の表紙

おきなわの彩

「久米島 畳石」

撮影：小早川 渉

にしおうしま  
久米島の東部、西奥武島の南海岸にある奇岩群。その形から亀甲岩とも呼ばれ、世界的にも珍しい自然の芸術作品です。



本号の電子Book版とバックナンバーはホームページでご覧いただけます。

【美ら島沖縄の設置場所】

美ら島沖縄



県内コンビニ、モノレール各駅等で無料配布しています。また、公共機関や銀行、病院など多くの方々が利用する施設でもご覧いただけます。新規設置施設も受付致しておりますので、関心のある方は広報課までご連絡ください。なお、全世界向けの戸別配布は致しかねます。ご了承ください。



募集

公立学校臨任教職員・非常勤講師

令和6年度の登録はこちらから▶





# 「沖縄県」この一年

2023年は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、県では「FIBAバスケットボールワールドカップ2023」や第7回「山の日」全国大会の開催をはじめとした大規模なイベントが開催されるなど、社会経済活動の回復に向け前進した年でした。

一方で、物価高騰による影響や台風第6号襲来など県民生活に深刻な影響が生じ、県では、事業者や被災者への支援など負担軽減および早期回復に向けて取り組みました。



1 祝 沖縄県動物愛護管理センター-譲渡推進棟開所式  
犬猫の殺処分ゼロ、廃止に向けた取組を推進するための拠点施設として動物愛護管理センターに譲渡推進棟を整備し、人と動物が共生する社会の実現に向け取り組んでいます。



2 次世代を担う沖縄の子どもたちに木工体験や木製玩具で遊ぶ機会を提供し、県産木材の利用推進に取り組むこととした「沖縄県ウッドスタート宣言」を行いました。



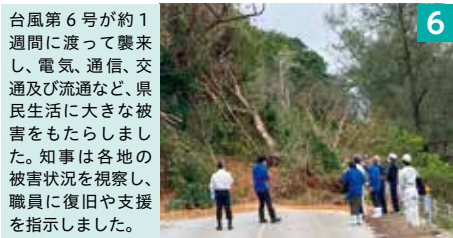
5 沖縄県医療的ケア児支援センターは、医療的ケア児やその家族などからのさまざまな相談に総合的に対応する拠点施設として開所しました。



3 沖縄県と長野県は、両県の強みや魅力を活かし、各分野において交流を促進し、連携・補完関係を強化することを目的に、交流連携に関する協定を締結しました。



4 沖縄県立北部病院と北部地区医師会病院を統合し、新たに整備する公立沖縄北部医療センターの設置主体として、県と北部12市町村が共同し、4月1日に沖縄県北部医療組合を設立しました。



6 台風第6号が約1週間に渡って襲来し、電気、通信、交通及び流通など、県民生活に大きな被害をもたらしました。知事は各地の被害状況を視察し、職員に復旧や支援を指示しました。

1月

- 7日 ● 沖縄県動物愛護管理センター譲渡推進棟「ハピアニおきなわ」開所式 **1**
- 15日 ● 「沖縄県ウッドスタート」を宣言 **2**
- 16日 ● パラオ共和国において同国との友好関係強化に関する覚書締結を記念するレセプションを開催（1/17）
- 19日 ● 離島フェア2022の開催（店頭販売1/29 オンライン販売2/24）

2月

- 1日 ● 南大東村への水道用水供給開始
- 1日 ● 首里城公園及び沖縄美ら海水族館等の県管理継続
- 2日 ● 第32回北前船寄港地フォーラム「Okinawaの開催」(2/4)
- 13日 ● ブラジルで琉球王国時代の貴重資料「家譜」を発見・寄贈される

3月

- 6日 ● 玉城知事が米国ワシントンD.C.を訪問（3/11）
- 14日 ● 豊見城市豊崎に豊崎交番が開所
- 15日 ● 「沖縄県及び長野県の交流連携に関する協定」を締結 **3**
- 28日 ● 沖縄県SDGs推進本部にて「おきなわSDGsアクションプラン」の改定を決定
- 28日 ● 沖縄・奄美エリアが、観光庁による「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」の全国11地域のモデル観光地として選定
- 31日 ● 「沖縄県差別のない社会づくり条例」を制定
- 31日 ● 本県の特性を活かした食育に関する計画である「第4次沖縄県食育推進計画」を策定

8月

- 10日 ● 「農業経営の維持・発展に向けたキャリアパスと新たなコミュニケーションづくり」をテーマに、農林水産部長と女性農業士の交流会を開催
- 11日 ● 第7回「山の日」全国大会おきなわ2023の開催 **8**
- 24日 ● 沖縄と奄美群島との交流の拡大に係る連携協定を締結
- 25日 ● FIBAバスケットボールワールドカップ2023開催（9/3） **9**
- 25日 ● 適切な価格転嫁及び賃金の引上げの推進により地域経済の活性化に取り組む共同宣言」の発出 **10**

9月

- 1日 ● ウチナーネットワーク継承キャリアバンの実施（カナダ・アメリカ、9/10）
- 11日 ● スタートアップ支援拠点「Startup Lab Lagoon Naha」開所式 **11**
- 14日 ● 公労使で構成される沖縄県雇用対策推進協議会において「人手不足への対応に関する共同宣言」を发出
- 14日 ● 認知症「本人が自身の経験を伝える」沖縄県認知症希望大使」を県内で初めて委嘱
- 18日 ● 玉城知事が国連人権理事会に出席 **12**

10月

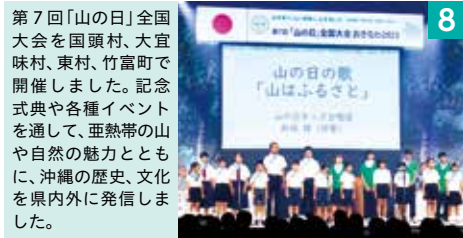
- 1日 ● 支援を要する若年妊産婦などの特定妊婦が安心して生活するための宿泊型居場所を設置
- 5日 ● 辺野古埋立変更不承認処分に関する是正の指示の取消を求める関与取消訴訟について、最高裁が異敗訴判決を言い渡した

募集 公立学校臨任教職員・非常勤講師  
令和6年度の登録はこちらから ▶

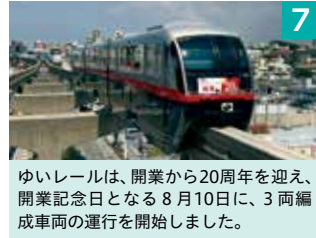




11 沖縄県のスタートアップに関連する複数の施策を実施するスタートアップの総合支援拠点として、那覇市内にStartup Lab Lagoon NAHAを開所しました。



7 第7回「山の日」全国大会を国頭村、大宜味村、東村、竹富町で開催しました。記念式典や各種イベントを通して、亜熱帯の山や自然の魅力とともに、沖縄の歴史、文化を県内外に発信しました。



7 ゆいレールは、開業から20周年を迎え、開業記念日となる8月10日に、3両編成車両の運行を開始しました。



13 首里城復興の機運醸成を図るため、首里城ナンバープレートの普及推進に取り組んでおり、交付開始となる10月23日に、首里城公園内守礼門前にて、記念セレモニーを実施しました。



12 玉城知事は、スイス・ジュネーブで開催された国連人権理事会本会議に出席し、沖縄に基地が集中している状況や県民の平和を希求する思いなどについて、スピーチを行いました。



9 8月25日から9月3日までの間、大会が開催され、日本代表の活躍でパリ五輪の出場が決定しました。県は支援協議会の事務局として、観客輸送、子ども達の招待などの取組を実施しました。



14 今年で35回目を迎えた離島フェアは、「帰ってきたよ！離島フェア」をテーマに、4年ぶりに沖縄セルラーパーク那覇(奥武山)で開催されました。



10 適切な価格転嫁と質上げを推進し、未来への投資が生み出される経済の好循環の構築に向けた全県的な気運を醸成するため、県内の商工労働関連16団体の連名で共同宣言を発売しました。

- 8月**
- 1日 ● 台風第6号が襲来  
玉城知事が被害状況を視察(8/11) **6**
  - 2日 ● ウチナーネットワーク継承キャラバンの実施(ラジル、8/12)
  - 10日 ● ゆいレール開業20周年記念式典及び3両編成車両出発式 **7**

- 7月**
- 1日 ● 水難事故防止運動の実施(10/31)
  - 10日 ● 名護市内でヤンバルクイナを初めて確認
  - 21日 ● 国指定重要文化財「首里の織物」の再指定並びに保持者の認定(各個認定)及び「琉球古典音楽」保持者の追加認定(各個認定)
  - 28日 ● 「沖縄県医療的ケア児支援センター」開所 **5**

- 6月**
- 8日 ● 沖縄県口腔保健支援センター「歯っぴ〜センター」開所
  - 14日 ● 令和16(2034)年第88回国民スポーツ大会の沖縄県開催内々定
  - 19日 ● 「沖縄県犯罪被害者等支援計画」を策定

- 5月**
- 8日 ● 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行
- 4月**
- 1日 ● 公立沖縄北部医療センターの設置主体となる沖縄県北部医療組合が発足 **4**
  - 3日 ● 「沖縄県訪問看護総合支援センター」開設
  - 1日 ● 働き方改革推進課、地域外交室しまくとぅば普及推進室の設置

- 12月**
- 1日 ● 「第3回ちゅうらうちなー草の根平和貢献賞」受賞者の決定
  - 30日 ● 伊平屋村への水道用水供給開始

- 11月**
- 6日 ● カンボジア地雷対策センターと「地雷対策を通じた平和と人間の安全保障」の啓発・普及のための博物館づくり」覚書を締結
  - 9日 ● ResoTech EXPO 2023 in Okinawaの開催(11/9)
  - 16日 ● 「11th 沖縄大交易会2023」の開催(11/17)
  - 17日 ● 第3回「沖縄県所得向上応援企業認証制度」認証式の開催
  - 24日 ● 離島フェア2023の開催(11/26) **14**
  - 28日 ● 第62回農林水産表彰行事むらづくり部門において、石垣市の「大浜公民館」が農林水産大臣賞を受賞

- 23日 ● 首里城図柄入りナンバープレート交付スタート **13**
- 24日 ● 第74回日本学校農業クラブ全国大会令和5年度熊本大会 プロジェクト発表会 分野Ⅲ類【ヒューマンサービス】 北部農林高校最優秀賞(文部科学大臣賞)受賞(10/26)
- 27日 ● 「第47回沖縄の産業まつり」の開催(10/29)
- 30日 ● 沖縄県マリンタウン国際会議・大型展示場整備運営等事業の実施方針を公表



募集

公立学校臨任教職員・非常勤講師

令和6年度の登録はこちらから▶





**頼りになる！  
寄り添い、支える  
子どもたちの身近な存在**



進め！

**うちなー  
調査隊**

県内の気になるコト・モノを知れば  
沖縄がもっと面白くなる！

# 地域や社会全体での取組が 子どもたちの未来を守る鍵になる

「子どもの貧困」は、沖縄にとって大きな社会課題の一つ。子どもたちは、これからの社会を担っていく沖縄の宝です。みんなで見守り、育てていく活動が、県内各地で始まっています。

**全国平均よりも高い  
沖縄の子どもの貧困率**

さまざまな家庭の事情から、健やかに成長するために必要な生活環境や教育の機会が得られない子どもたちがいます。いわゆる「子どもの貧困」問題です。

県は2016年1月、全国に先駆けて県内の子どもたちの貧困率に関する調査を行いました。推計した結果、子どもの貧困率は全国平均の約1.8倍となる29.9%と算出されたのです。

1日の中で、学校給食だけしか栄養バランスの良い食事が取れなかったり、経済的な理由で病院の受診ができなかったり、進学を諦めたりすることも。社会において「当たり前」とされることのできない子どもたちが、数多くいるのが現状です。

**できることから始める  
さまざまな支援活動**

県は2022年3月、「沖縄県子どもの貧困対策計画(第2期)」を発表しました。基本理念として「社会の一番の宝である子どもたちが、現在から将来にわたって、その生まれ育った環境によって左右されることなく、夢や希望を持って成長していける『誰一人取り残さない優しい社会』の実現を目指す」と掲げ、それぞれの家庭だけの問題とせず、地域や社会全体で取り組んでいくことが必要とされています。

例えば、「子どもの居場所」もその一つ。家でも学校でもなく、子ども自身が安心して、自分らしく過ごすことができる居場所のことで、県や市町村が実施した調査によると、県内には離島を含めて316か所(2023年10月1日現在)

在)あります。自治会やNPO法人などが運営し、食事の無料提供や学習指導などサポート内容はさまざま。県内の大学生らが学生ボランティアとして派遣され、スタッフを務めることもあります。

県は2016年3月、「沖縄県子どもの貧困対策推進基金」を設置。県民一体となって貧困対策を推進するため、同年6月に「沖縄子どもの未来県民会議」を設立しました。個人でできる支援も多くあり、子どもたちが無料で食事ができる「みらいチケット」もその一つ。フードドライブや募金活動も盛んで、子どもの居場所や子ども食堂で使う食材や、利用する書籍や用具は寄付によって賄われているところもあります。県や地域、民間団体、そして個人が「自分ごと」として考え、社会全体で取り組むことが解決への第一歩となります。



**公立学校臨任教職員・非常勤講師**

令和6年度の登録はこちらから▶



### 学生たちの 反応は？

年々参加希望者は増えていて、中には1人で数か所を掛け持つ学生もいるそう。学校の授業とは違う実践的な学びの場として、関心が高まっているようだ。



## 主な活動内容をご紹介します

- **学習支援**  
毎日の宿題や受験勉強、試験対策と一緒に取り組む。
- **生活支援**  
一緒に遊びながら日常生活におけるきまりや、良い習慣、買い物の仕方、お金の使い方などを経験させる。
- **芸術活動**  
絵画、楽器などを扱う。
- **共同給食**  
子どもたちの食事を準備し、食育も行う。

### CASE 1



子どもの居場所  
学生ボランティアセンター  
<https://www.consortium-okinawa.or.jp/kg-vc/>

[ボランティア]

ホームページ



## 子どもの居場所で活躍する 学生サポートボランティア

県内11か所の高等教育機関に通う学生ボランティアを、各地の子どもの居場所に派遣している。2023年度は10月末時点で、200名超の学生が100か所以上の居場所で活動。事前研修会で基礎知識を身に付けた学生が参加し、子どもたちにとって年齢に近い「お兄さん、お姉さん」的存在として、寄り添い型のサポートを提供している。

## 各地に広がる子どもたちへの支援の輪

### CASE 3



[居場所]

にじの森文庫

<https://nijinomori-okinawa.com/>

ホームページ



親子で利用可能!  
地域に密着した憩いの場

### 1500冊以上の本を揃え、子ども食堂も併設

誰でものんびり自由に過ごすことができる子どもの居場所として、2016年に那覇市松川に開所。絵本や漫画、児童書など1500冊以上の本があり、無料で食事も提供している。1日25~30人の小中高生が訪れ、一緒に食事をし、クラブ活動を通して協力し合うことで、子どもたちの成長につながっている。母親が利用できるのも特徴で、情報交換したり、悩みを相談し合ったりして親交を深め、困っている親子を孤立させない仕組みづくりを行っている。

### CASE 2



[寄付]

タコライスラブズ

<https://www.tacorice-lovers.okinawa/>

公式LINE



約3年間で5万食!  
協力店も約6倍に

### 「優しさ」が形になった、笑顔を生み出すチケット

子どもたちが無料で食事ができる「みらいチケット」の普及活動に取り組む。「みらいチケット」は、食事代金にプラス料金を支払うと購入可能。店内に掲示されたボードに貼り付けられ、来店した子どもたちがそのチケットを使ってご飯を食べられる。協力店は、立ち上げ当初の32店舗から約3年間で184店舗に増え、これまでに約5万食を提供。「みらいチケットはたくさんの人の優しさで成り立っています」と代表の山川さん。多くの善意が、子どもたちの笑顔につながっている。

### 進捗! うちなー調査隊 まとめ

「子どもの貧困」を解決することで  
沖縄の豊かな未来につながる!



- ☑ それぞれの家庭のみの自己責任とするのではなく、地域や社会全体の問題として取り組むことが必要。
- ☑ ボランティアや寄付活動など、一人一人ができることを探ることが大切。



募集

公立学校臨任教職員・非常勤講師

令和6年度の登録はこちらから▶





# ともに考える、沖縄の米軍基地の話 ①



## ●なぜ沖縄に米軍基地ができたのか

沖縄は、太平洋戦争において、熾烈な地上戦が行われ、「鉄の暴風」と呼ばれたほどのすさまじい爆弾投下と砲撃により、県民の4人に1人が命を奪われ、緑豊かな島々は焦土と化しました。

沖縄に上陸した米軍は、住民を収容所に強制隔離し、土地を接收し、次々と新しい基地を建設していきました。

太平洋戦争終結後も、朝鮮戦争の勃発などに伴い新しい基地が必要になると、武装兵による「銃剣とブルドーザー」で住民を追い出し、家を壊し、田畑をつぶして、新たな基地を造っていきました。

沖縄には、このようにして広大な米軍基地が造られ、本土復帰後も、沖縄の多くの米軍基地が日米安保条約に基づく提供施設・区域として引き継がれました。

## ●沖縄にはどれだけの米軍基地があるのか

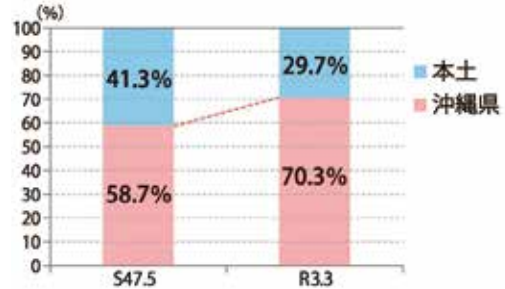
本土復帰当時、沖縄にある米軍専用施設面積の全国に占める割合は、約58.7%でしたが、本土では、基地の整理縮小が沖縄よりも進んだ結果、現在では、国土面積の約0.6%しかない沖縄に約70.3%が集中しています。

沖縄県には、31の米軍専用施設があり、その総面積は約1万8,453ヘクタールで、本県の総面積の約8%、沖縄本島ではその面積の約15%を占めています。

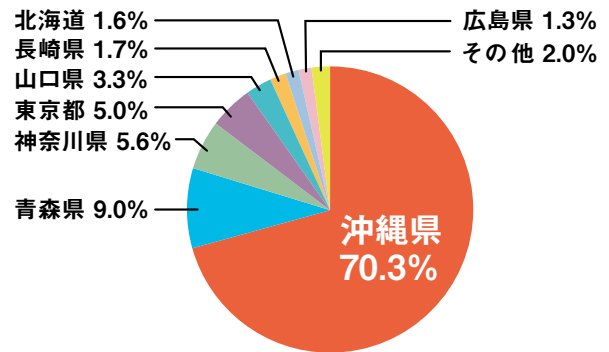
特に、本島中南部都市圏には、県民の8割以上が暮らしていますが、市町村を分断する形で約6,562ヘクタールもの米軍基地が存在しています。

このような米軍基地の存在は、望ましい都市形成、交通体系の構築、産業の集積などの地域振興を実現していくうえで大きな障害となっています。

### 米軍専用施設面積の割合の推移（復帰後）



### 米軍専用施設面積の割合



詳しくは、基地対策課ホームページの「沖縄から伝えたい。米軍基地の話。Q&A Book」をご確認ください。



問い合わせ

基地対策課

電話：098-866-2460

FAX：098-869-8979

広告



公立学校臨任教職員・非常勤講師

令和6年度の登録はこちらから▶

